

「異文化を通して学ぶ」「出会いから学ぶ」～チェンジメーカーとして



私のリフレクション

○タイの教育の現状について、現地校訪問、現地教職員との交流を通して日本との相違点を見つけながら日本の教育現場に生かしていける方策を探る。

⇒タイ教育省の掲げる「HAPPY LEARNING」（教育に関わる教職員・保護者・児童生徒が幸せとなる学び）の考えが、訪問した教育機関から感じ取られたことは、国の目指す教育が各現場へと波及していることを感じた。

⇒教師と生徒の関係は信頼によって繋がっており、教師には児童生徒を育むための時間的・心の余裕があるように感じた。

⇒特別支援に対する学校の体制が充実しており、「HAPPY LEARNING」の具現化の一つであろう。またジェンダーや少数民族へも寛容さが国民性（王室や仏教の思想）から来ることを感じた。

3つのアクションプラン



1

教職員の働き方について

◆働き方改革を進めなければならない。日本の先生方は「教師は子供たちのため」との哲学はもちつつ、余裕がなく、児童との対話や将来へのアドバイス等の時間がさけていない。『スクラップ アンド ビルド』で「教師にしかできないこと」の精選を行う。

（日本型「HAPPY LEARNING」の具現化）

2

外国語・異文化理解の推進

◆英語が話せることは世界を身近に感じることができるとの実感をオンラインでの交流授業などを通して実践していく。（国際理解教育）

◆見学した聾学校などでの「障がいをもつ児童生徒」が生き生きと学ぶ様子を目の当たりにした。異質なことととらえず自分ごととした関わりをもち、教員や児童生徒の心の中の壁を取り除きたい。（人権教育）

3

校内外教職員並びに児童・保護者・地域への広報

◆校内教職員並びに児童・保護者・地域への広報

・オンライン全校朝会実施「プログラム中実施」

・教員の学びを啓発「タイ研修報告会」

・給食にてタイ料理を提供 3/10

・全校児童が「タイ紹介動画」視聴

・本プログラム参加学校（他県の小学校・私立中等学校）との交流

◆区教育委員会での発表について

・区副校長会にて本プログラムの取組を紹介し区内へ広報